みんなの けいびょうニュース

2013 VOL.22

第1回
作文コンクール の作品が リーフレット になりました！

専門外来のご紹介
脳血管内治療外来

診療科紹介
皮膚科
形成再建外科・美容外科

Our Specialists!
必見！
当院の「匠」をご紹介

知っ得？情報！
ここが知りたい！薬の効く仕組み！
災害時に備えた食品の備蓄を！

TOPICS
災害総合訓練実施レポート

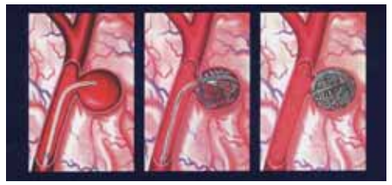
Keibyo News

専門外来のご紹介

脳血管内治療外来

時代は低侵襲へ

「切らない」治療で、リスクを軽減

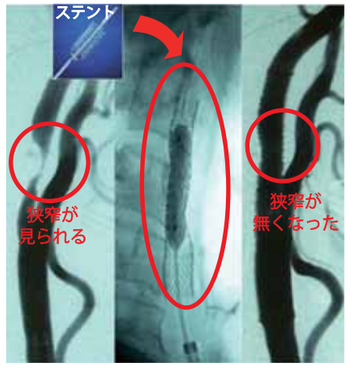


▲▼脳動脈瘤コイル塞栓術

大阪警察病院脳神経外科では、脳神経外科の手術治療に脳血管内治療を取り入れています。脳血管内治療とは、文字通り脳血管の内側から（血管の中から）病変部を治療する手術です。開頭術などの直達手術に対して、太ももや腕の血管からX線透視下で行うカテーテル治療ですので、切らなくても受けられる低侵襲手術とも呼ばれており、患者さんからの問い合わせも多い治療法です。当科では、脳卒中の予防や再発予防のための外科的治療、超急性期脳梗塞の治療に血管内治療を行っています。

私たちが脳血管内治療を選択するのは、直達手術での治療が難しい場合や、全身麻酔のリスクが高い合併症を患者さんが持っておられる場合です。くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤治療では、脳深部や脳神経近くの脳動脈瘤に対して、血管内治療（脳動脈瘤コイル塞栓術）を提案しています。

また、近年、頚動脈エコーで発見される機会が多くなった頚動脈狭窄症は、脳梗塞のリスクを増加させるとされていますが、高度狭窄症では内服治療に加えて、手術治療を行うことがリスク軽減に有効とされています。頚動脈狭窄症は心疾患の合併や高齢の方が多く、全身麻酔のリスクが高い場合があります。このような患者さんに対しては、局所麻酔で手術が可能な血管内治療（頚動脈ステント留置術）を行っています。



頸動脈ステント留置術

このように、脳血管内治療は、開頭手術が困難であったり、全身麻酔のリスクが高い患者さんにも治療が行えるなど、切らないという意味での低侵襲にとどまらない利点があり、２０１１年は８７件、２０１２年は７１件の脳血管内治療を行いました。

当科では、従来の直達手術と、ここでご紹介した脳血管内治療を行い、それぞれの手術の特徴を生かして、患者さん一人一人に最良の医療が提供できるよう取り組んでいます。

脳神経外科　副部長
日本脳神経外科学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医
明田　秀太

お待たせしました！

第１回 大阪警察病院 作文コンクール リーフレット

キモチがカタチに

集まったたくさんの「ありがとう」をリーフレットにしました。

目次紹介

・乳がんからの生還
・素直な心でおかげさま
・乳がんになって
・2012 年の夏
・再び歩ける喜びを得て
・助かった２つの命と支え・愛
・本気モードにスイッチが
・同じ時を過ごした人たちへ
・ペースメーカー手術の思い出
・大阪警察病院の皆さんありがとう

けいさつびょういん 作文コンクール 作品集

2012 年９月から３ヶ月間、第一回大阪警察病院　医療体験記を募集しました。当院のスタッフとの思い出や、壮絶な闘病記、また我々が決して知ることの出来なかった新たな気づきや、さまざまな感動のストーリーなど…本当にたくさんの作品に触れることができ、喜びの気持ちでいっぱいです。

長引く外来治療や入院生活には不安が伴います。そんな中、当院スタッフが常に心がけている事、それは「愛」「熱」「和」の精神。今回のコンクールでは、その熱い思いが伝わり、素晴らしい作品が集まりました。当初はこのけいびょうニュースで、優秀作のご紹介を予定していましたが、よりたくさんの作品をご紹介したいという思いで、別冊化が決定しました。本企画のテーマは「キモチがカタチに・・・」。是非皆様にお読み頂き、温かい気持ちを分かち合っていただければと思います。

形成再建外科・美容外科のご案内

Quality Of Life の向上
を目指します。

形成外科は眼科、耳鼻科、泌尿器科などの身体の部位や臓器別の診療科ではありません。形成外科という診療科をまだ聞き慣れない方、聞いたことはあるけれどどんな病気を治すのか良く分からない、という方が多いと思います。

形成外科は、「機能回復」と「生活の質"Quality of Life"の向上」を目指す専門外科で、全身のあらゆる部位の異常や形態の変化を治療します。

私たちには生まれつきであったり、生活していく中での様々な出来事（外傷、悪性腫瘍、加齢など）の結果として、外観的な変形が生じてしまうことがあります。それは、直接的に命には関わらないとしても、見た目の問題のみならず、機能的な問題や心の問題にも発展します。

身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、美しくすることによって、QOLの向上に貢献する外科系の専門領域が形成外科です。

形成外科には大きく分けて二つの分野があります。

【再建外科】
組織の異常、変形や欠損などの「疾患」を治療対象とします。

【美容外科】
患者さんが気にしておられる形状を治療対象とします。

保険診療が主体ですが、内容によっては自費診療になる場合があります。当院形成外科では、相談に来られた患者さんの話をよく聞き、いくつかの方法を提示した上で患者さんと共に治療法を選択しております。

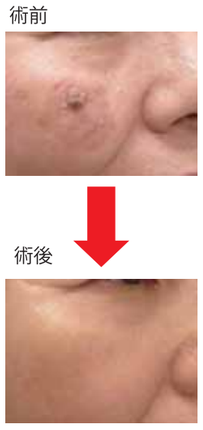
また、他科と協力し、乳癌術後の乳房再建、悪性腫瘍切除後の再建や、糖尿病や末梢動脈閉塞に伴う難治性潰瘍の治療なども行っていますので、他科で治療中の患者様でも安心して受診いただけます。

（文責：山内 菜都美）

形成再建外科・美容外科　部長
日本形成外科学会専門医
前田　求

【眼瞼下垂】

【脂漏性角化症】



形成外科で扱う代表的な疾患・手術

- 先天異常：口唇、口蓋裂、手足の先天異常（合指症・多指症など）など
- 再建外科：外傷や手術による組織欠損、変形の治療、乳房再建
- 手の外科：外傷性切断、骨折、腱損傷など
- 母斑・血管腫・良性腫瘍
- 顔面外傷
- 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド
- 褥瘡・難治性潰瘍（下肢静脈瘤）
- 熱傷
- 美容外科：シワ、タルミ、シミの改善、瞼、鼻などの美容手術

皮膚科

幅広〜い診療領域に対応しています。

皮膚科の疾患は非常に多岐にわたりますが、その一つ一つを着実に診断し、丁寧に説明をしたうえで治療を行うよう、スタッフ一同常に心がけています。

皮膚科スタッフ

皮膚科　部長
皮膚科専門医、日本アレルギー学会会員
八幡　陽子

当科では特に下記のような重症度の高い疾患の診断・治療に積極的に取り組んでいます。

CHECK！ 皮膚悪性腫瘍

基底細胞癌、有棘細胞癌、悪性黒色腫などの頻度の高い皮膚癌に加え、比較的頻度の低いまれな皮膚悪性腫瘍についても治療を行っています。

形成外科と協力し手術を行った後に状態に応じて化学療法を併用しています。

悪性黒色腫

扁平上皮癌

基底細胞癌

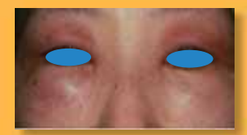
CHECK！ 血管炎

主に膝から下の皮膚に赤い斑点、紫斑や水疱、血疱ができる疾患です。病状がすすむと発熱や全身倦怠感を伴い、腎機能障害や消化管出血を合併することもあるため、皮疹出現時にはできるだけ早く受診していただくことをおすすめします。

過去５年の手術・生検数

CHECK！ 皮膚筋炎

顔や手、背中に特徴的な赤みのある皮疹が出現するとともに、腕、太ももなどの筋力が低下する膠原病の一種です。内臓悪性腫瘍や間質性肺炎を合併することもあり、至急にＣＴなどで全身の検査を行い、治療をはじめる必要があります。



CHECK！ 自己免疫性水疱症

全身の皮膚に赤みや水疱、ただれがおこる疾患です。口の中や舌、眼の粘膜のただれを合併することもあり、摂食障害や視力への影響が出る場合もあるため早期の診断、治療が必要です。

皮膚だけでなく、爪、毛髪、口の中や陰部の粘膜などに症状がある場合は皮膚科を受診していただき、必要に応じて血液検査や皮膚の病理組織検査、皮膚および血管の超音波検査や CT、MRI などの画像検査も含めた詳細な検査を行ったうえで診断を確定し、その重症度に応じて入院および外来での治療を行っております。

写真のような皮膚症状が認められた場合にはかゆみなどの自覚症状が乏しい場合にもできるだけ早期に皮膚科を受診されることをおすすめします。

以下のような疾患・治療に対応しています

水痘、帯状疱疹、蜂窩織炎、伝染性膿痂疹などのウイルス、細菌感染症、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹などのアレルギー性皮膚疾患、食物アレルギー、金属アレルギー、薬剤アレルギーの検査、診断、掌蹠膿疱症、尋常性乾癬、尋常性白斑、円形脱毛症、サルコイドーシス、ベーチェット病 その他

放射線技師とは

私たちの国家免許の正式な名称をみなさんはご存知ですか？

正しくは『診療放射線技師』と言います。

この『診療』という言葉には、『医療従事者が診察や治療などを行うこと』という意味があります。私たちの持つ免許は、単に放射線を用いて画像を撮影するだけではなく、診察や治療も行うことができる免許なのです。とはいっても、実際は医師のように診察を行ったり、手術をするなどいった治療を施すことはありません。しかし、私たちは撮影時に患者さんと話をし、現在の状態・痛みの部位や頻度等の訴えを聞き、動きを見て、時には目的部位に触れ、撮影画像を一番初めに目にします。実は、患者さんの訴えの一番近くにいる職業かもしれません。そんな訴えを撮影しながら診察し、検査や治療をチームの一員として行う、それが『診療放射線技師』の仕事だと思います。

診療放射線技師
マンモグラフィ撮影Ａ判定

核医学専門技師　救急撮影認定技師
日本ＤＭＡＴ隊員

放射線技術科

安藤　英里

（Eri Ando）

マンモグラフィ撮影

放射線技師の仕事は多岐に渡りますが、私の仕事の中心となっているのが、乳癌検診などで行われる、マンモグラフィ撮影です。上半身裸で、乳房を専用の装置で圧迫し、薄くした状態で撮影するため、痛みや羞恥心が伴います。また、乳房以外の場所にも触れないと撮影ができないため、患者さんはどうしても不快な気持ちになってしまいがちですが、出来るだけ会話を増やすことで不安感を取り除き、尚且つ主訴の描出に努めています。

撮影後は、画像をその場で確認・評価し、必要があれば拡大などの追加撮影を行っています。過度な追加撮影は被曝が増えるためよくありませんが、診断に有用になる情報を提供することに大きな意味があると思っています。追加撮影の判断に関しては、医師から撮影技師に一任されているので、過去の画像や他施設での撮影画像と比較しながら、悪性の所見かどうかの決定に有用な画像を提供できるよう、必要に応じて追加撮影をしています。

常に院外の研究会や講習会・学会に参加することで新しい情報を得、マンモグラフィ撮影技師で共有し、日常業務に活かす努力をしています。当院の装置の特徴をつかみ、最少の被ばく線量で、診断に有用な最大の画像を提供できるよう努めていますので、安心してマンモグラフィを受けに来てください。

▲講習会での講演の様子

私は院外活動として、近畿圏で行われるマンモグラフィ講習会に講師として参加させていただいています。そこでは、受講されている他病院の技師の方と一緒に適切なマンモグラフィ撮影の方法や装置の管理方法などを実習します。毎日安全に、苦痛を少しでも減らして撮影できる技師が増えていくことを願いながら、放射線の基礎や接遇を含めて2日間みっちり講習会を行っています。

Off Shot

病院の仲間とマラソンレースに出場しました！（写真中央）

富士山をバックにナイスショット！！

一級建築士

一級建築施工管理士　建築設備士
大阪府被災建築物応急危険度判定士
第三種冷凍機械製造保安責任者

事務部施設課

奥平 一充

（Kazumitsu Okuhira）

みなさんは、大阪警察病院に「施設課」という部署があるのをご存知でしょうか？事務部に所属する当課は、病棟の改修工事から機器の修理までと非常に幅が広く、いわば「縁の下の力持ち」の部署です。その中で私は、一級建築士という資格を活用し独自の視点から業務に携わっています。

業務内容は、改修工事の計画・設計・積算・見積り作成・工事後の完成検査など。各部門から工事の要望が上がった際に、図面作成、見積り積算などを行い、変更のあった場合にも速やかに対応できることが一級建築士としての強みです。また、着工してからの現場担当者との細かい調整や行程管理は勿論、工事完了後も徹底的に使いやすさを検証し「利用する人の満足度」を高められることも、院内に建築士が在籍するメリットの1つだと考えています。

最近携わった工事では、看護師寮の改装や、病棟の浴室改修工事などがありますが、業務に当たっては、当院の限られたスペースをいかに効率よく利用するかを常に考えながら設計を行い、患者さんにご迷惑やご心配をかけぬよう、安心かつ安全をお届けできることを最優先に考え日々業務を行っています。

また、施設課は、２４時間３６５日、各種設備の保守管理など、工事以外の業務も行っています。今年から私も中央材料室担当となり、手術室で使用される医療機器の点検や整備などにも従事しています。

また、他のスタッフの技術レベルも非常に高く（施設課技術職員１０名で約９０の資格を保有）、毎日、お互いに切磋琢磨し、助け合いながら様々な業務をこなします。

私も入職後、自己のスキルアップのため、一級建築施工管理士、建築設備士、大阪府被災建築物応急危険度判定士（※1）、第三種冷凍機械製造保安責任者の資格を取得しました。このようなモチベーションの高い当課では様々な資格を活かし患者さんに満足いただける病院作りを行っています。

そんな当院のスペシャルスタッフをご紹介します。

他部署からの要望を聞きながら作業を行います。

さて、私の故郷、沖縄県は宮古島に、「アララガマ」と言う言葉があります。

意味は、一般的に「なにくそっ！」と訳され、宮古人の負けず嫌いと粘り気質を表しており、厳しい状況の中でも最後にもう一踏ん張りと言う時に使います。「苦しいっ…アララガマ…辛いっ…アララガマ…悲しいっ…アララガマ…」まるで呪文のようですが、宮古人の心を支える熱の籠ったキーワードです。皆さんも一度試して下さい。本当にエネルギーが沸いてきますよ。

今後も一人の施設課職員として、そして一級建築士として、ますます研鑽を積み重ね、よりよい病院作りの一端を担えるよう、頑張って行きたいと思います！

（※1）地震等により被災した建築物の余震等による倒壊、部材の落下等から生じる二次災害を防止するため、被災建築物の応急危険度の判定を行なう資格で建築士の有資格者が条件で大阪府知事の交付となっています。当院は大阪府災害拠点病院であり皆様の安全を守る大切な資格の一つです。

みなさんは薬が効く仕組みをご存じですか？

口から飲んだ薬の多くは、胃で溶かされ、十二指腸や小腸から吸収されて肝臓へ運ばれます。一部が代謝（分解）され、残りの成分が全身の血液の流れに乗って体のさまざまな場所や効いてほしい部分に運搬（分布）され、薬としての効果を発揮します。

全身を巡った薬は、肝臓に戻り代謝を受け、役目を終えたものとして処理されます。そして腎臓から尿中に、また肝臓からそのまま糞便中に排泄されます。一部は呼気中・汗・唾液に排泄されます。薬を飲む度にこの過程が繰り返され、やがて薬が体内に入ってくる量と出ていく量が等しくなる状態（〝定常状態〟と呼びます）に到達します。通常は、薬の血中濃度が定常状態となって安定して効果を発揮します。

1回に飲む薬の量や1日に飲む回数は、定常状態に到達する血中濃度になるように調節されています。自己判断で薬の飲む量や回数を増やすと、血液中の薬の濃度が高くなり、薬が効き過ぎて副作用が引き起こされる恐れがあります。また、薬の飲む量や回数を減らすと、薬の効果が現れません。

薬の効果を十分に発揮させるためには、決められた量や回数を守って飲むことが大切です。

ここが知りたい！薬の効く仕組み！

薬剤部　係長
北口　剛吉

災害時に備えた食品の備蓄を！

なるほど！

栄養管理課 課長　　西尾　勢津子

食べることは生きること

非常災害時、身の安全を確保したら、次に大切なのは水と食事です。食べることが大切な命を守ることにつながります。

1．まずは水！我慢は禁物です。

ライフラインが被害を受けると、水がない不自由な生活が強いられます。食事の量が少なくなると、必然的に食事からの水分量が減ることになり、さらに飲料水も限られるとなると、脱水症、心筋梗塞や脳梗塞、エコノミークラス症候群などの危険性が高くなります。

備蓄アドバイス：ペットボトルの水、バケツ、ポリ容器など

2．次に食事です。

体力をつけて、心身のストレスに負けないためにも、食べてエネルギーを補給しましょう。さらに可能であれば、たんぱく質、ビタミン、ミネラルなどを補う食品を活用します。

備蓄アドバイス：ビタミン強化米や玄米、魚や肉の缶詰・レトルト食品、野菜や果物の缶詰やジュース、栄養ドリンク、カセットコンロなど

3．安全に食べましょう。

災害時は、断水などで衛生状態が悪くなりがちです。食中毒やノロウイルスなどの感染性胃腸炎が流行しやすいので、衛生管理には最大限の注意が必要です。

備蓄アドバイス：ラップ、ウエットティッシュ、手指用アルコールなど

4．災害弱者を守りましょう。

災害時、赤ちゃんやお年寄りは非常に弱い立場になります。また、食物アレルギーのある人は食品の確保が困難になります。特別な食品が必要な人ほど、いざという時のために、日ごろから備蓄を心がけましょう。

備蓄アドバイス：粉ミルク、嚥下困難者用レトルト食品、とろみ剤、食物アレルギー対応食品など

震度6強

上町断層帯地震

多数の傷病者が発生…

第1回大阪警察病院
災害総合訓練

平成24年11月11日（日）に災害総合訓練が行われ、職員276名、看護学生80名、天王寺消防署1隊、院外DMAT（災害派遣医療チーム）3隊と大勢の方々が参加しました。

今回は、「上町断層帯地震により、大阪市を中心に震度6強の地震が発生し、多数の傷病者が発生した」という想定で、院内被害状況等の把握と患者受入体制の確認及び患者の受入訓練を行いました。

当院のような災害拠点病院の役割は、災害時のTTT（Triage＝トリアージ、Treatment＝治　療、Transportation＝搬送）を習得し、「限られた医療資源のもとで最大多数の傷病者に最善を尽くす」ことにあります。いつ起こるかわからない災害に対し、災害拠点病院として病院危機管理を行い、災害時の混乱に備えて日頃から職員全員で災害時の意識づけを行うことが大切です。

今回の訓練では、情報伝達手段が制限される中でのやりとりについて、今後の訓練やシミュレーションを通し、平時より準備が必要であることがわかりました。

DMATチーム

この訓練の際に裏方としてがんばってくれたのが、当院のDMATのメンバーです。DMATとは災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team）の略称であり、厚生労働省の指示で全国の災害拠点病院に設置されている、災害急性期に被災地に赴き医療活動を展開するチームです。先の東日本大震災においては当院からも1チーム（医師2、看護師2、業務調整員1）が岩手県に派遣されました。現在、医師5名看護師11名業務調整員7名が日本ないし大阪DMATに登録され、緊急時に備えています。

現在、新規隊員登録のための研修や、隊員の活動能力を高めるべく各種災害訓練に参加するとともに、院内にもトリアージ訓練等の啓蒙活動を行っています。

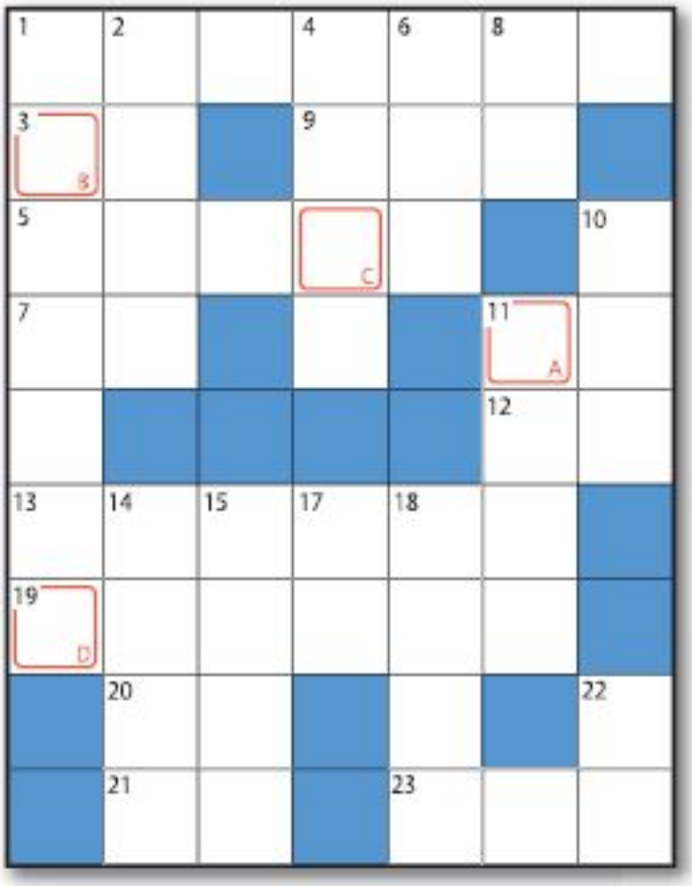
遠方で災害が発生した時のみならず、当院周囲で災害が発生してしまった際に院内災害医療が滞りなく行われるよう、今後もDMATメンバーが核となり、警察病院の災害医療体制を充実してまいります。

災害総合訓練実施レポート

OPH CROSS WORD

今回から新しい企画をご用意しました。
その名もOPH CROSS WORD！！
テーマは「医療」レッツチャレンジ！！

検査の基本は A B C D です。



縦のキー
1. メスでお腹を開きます。
2. 医師で構成する団体
4. 血流が悪くなり、特定部分に貯留する現象
6. 仏教の宗教活動の中心となる建物
8. 冬の空から降ってきます
10. 母親のお腹の中にいる赤ちゃん
11. バクテリアのこと
14. ノロ、ロタなどの感染性の病原体
15. 局所麻酔の一種
17. 人の身の上に巡りくる意志を超越した働き
18. 串焼き、煮込みに最適な鶏肉の部位
22. 肺から排出される空気・吐く息

横のキー
1. メスで頭を開きます。
3. 病院で二番目に多い職種　古くは「くすりし」といった。
5. 一定の刺激を与えたときの生体反応で臓器の機能を判定する方法
7. ○○を打ち込む
9. 書き足すこと
11. 鼻に角のある動物
12. 病気や傷の診療・治療に関する事
13. あなたの症状にはこの薬が○○○○○○です。
19. 腰痛が治りません…この部分のヘルニアでして…
20. 友達を呼んできたりします。
21. 昔の長さの単位　約3.03センチ
23. 特定の薬剤を一緒に使用すると、人体に悪影響を及ぼすため、その使用を避けること

▲マスの右下に書かれているA～Dを右上に当てはめると出来上がり！

Pick up Photo!

1月より3.0TのMRIを導入しました！従来よりも鮮明な画像を撮影できるようになり、より精度の高い検査が可能になりました。

編集後記

前号は全紙面のリニューアルを行いましたが、本号の発刊までに在庫切れとなり、嬉しさと驚きを感じています。病院広報誌は、病院の取り組みや診療科の特殊性などを患者さんにわかりやすく伝える事が大切ですが、文字にして人に伝える事は大変難しく、どうすれば患者さんに手にとって読んでもらえるか、一冊の広報誌を作成するにも課内で様々な知恵を出し合っています。

病院には医師や看護師以外にも様々な職種の職員が働いており、すべての職種が病院には欠かせません。本号では診療をサポートする。診療放射線技師。や患者さんの過ごしやすい環境を作る。施設課。のスペシャリストにスポットを当て、病院全体がチームとして治療を行っている様子をお伝えしたく企画しました。

さらに、外来時にどうしても発生してしまう待ち時間の合間に解いていただけるように、医療クロスワードパズルも作成してみました。是非、挑戦してみてください。また、。けいびょうニュース。へのご意見・ご感想がございましたら、HPの「お問い合わせフォーム」よりお寄せください。（T．K）

大阪警察病院

発行：企画調整課
〒543-0035　大阪市天王寺区北山町10-31
TEL：06-6771-6051／FAX：06-6775-2838
http://www.oph.gr.jp

大阪警察病院　企画調整課　大阪府大阪市天王寺区北山町10番31号　電話（代表）06-6771-6051　FAX：06-6775-2838
広報誌についてのお問い合わせは大阪警察病院企画調整課まで